

## 緊急アンケート

新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動アンケート『見えない地域の底力』を集めよう～英知と工夫を集めて、普段の暮らしを取り戻す～

### 【速報版・概要版】

令和2（2020）年の2月ごろから拡大を見せた新型コロナウイルス感染症は、3月に小中学校の一斉休校を皮切りに、大きな社会変化を見せました。令和2年（2020）年4月7日に一部の地域に出された緊急事態宣言、4月17日には全国に広がりを見せています。

これらの影響は、経済活動や日常の生活を直撃しただけでなく、「住民とともに推進してきた地域福祉活動も、当会の取組みも、人の移動、対面が制限され、中止、休止を余儀なくされています。そのことで、不安が広がっています。一方で、地域福祉活動を進めておられる団体などでは、これまでの「人と人とのつながり」を生かし、工夫し、孤立を防ぐ取り組みを展開しているところもあるとお話を聞いたりしています。

そこで当会では、この緊急事態下において、今だからこそその「人と人とのつながり」を再確認し、この困難を一緒に乗り越えるための工夫を共有し、普段の暮らしを取り戻したく、「緊急アンケート新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動アンケート『見えない地域の底力』を集めよう～英知と工夫を集めて、普段の暮らしを取り戻す～」と題して、アンケート調査の実施を令和2（2020）年4月10日に行うことを決定しました。

### 1. 調査趣旨

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を受けて、人の移動、対面が制限され、地域福祉活動も中止、休止が余儀なくされている中で、地域福祉活動に関わる人たちが、何を思っているのかを知る。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の中で、地域福祉活動に関わる人たちが、これまでと違う方法で、つながりを保っている事例を発掘する。
- ・今後の地域福祉活動の支援として、本会が求められていることを把握する。

### 2. 調査対象者と方法

- ・活動者 254人への電話等での聞き取り。聴覚障害者は、筆談で実施。  
電話での聞き取りに先立ち、アンケート項目を送付し、電話で回答を得た。  
学区福祉委員会代表者や役員、サロン代表者、活動者、ボランティアグループ代表者、当事者団体役員、生活支援コーディネーターがかかわっている団体、一般介護予防事業介護予防普及啓発事業（Bタイプリハビリ）ボランティアグループ代表や役員、その他普段からかかわりのある地域団体役員。
- ・対象者、利用者 電話、訪問時等に聞き取り。  
地域福祉権利擁護事業の利用者、一般介護予防事業介護予防普及啓発事業（Bタイプリハビリ）の利用者、生活困窮者自立支援事業学習支援事業の利用者と保護者  
※現在、聞き取り調査中

### 3. 実施体制

アンケート調査では、大谷大学社会学部志藤修史先生（宇治市地域福祉活動計画

策定委員長)とともに、当会の職員で実施

#### 4. 活動者へのアンケート調査の結果概要

##### (1) 回答者の属性について

254人の属性は、複数回答としており、のべ数319人。

サロン代表者(90人)、ボランティアグループ代表者(47人)、Bリハボランティアグループ代表者や役員(35人)、学区福祉委員会役員(25人)、学区福祉委員(27人)、当事者団体役員(23人)、生活支援コーディネーター把握団体(16人)、サロン活動者(10人)、第1層協議体(4人)、そのほか(39人)

##### (2) 中止、休止した活動の有無

92.8%(244人)が、中止、休止ありと回答。

##### (3) 中止、休止した活動

- ・サロン活動、学区福祉委員会の給配食活動、介護予防普及啓発事業Bタイプリハビリ事業、ボランティア活動など多岐にわたる。
- ・継続している活動の特徴は、福祉施設での活動を中心に行っているボランティアグループや、DV支援や介護保険外の支援活動をする団体などがある。

##### (4) 活動中止、休止の判断について

- ・感染症リスクの軽減や「三密」の回避が難しく、会場使用が困難になったところが一番多かった。
- ・役員と協議をして、安全を最優先に考えて休止、中止判断をしたところも二番目に多かった。
- ・委託事業に関わる団体は、行政や当会の指示によるという回答も多くあり、この回答では、「役員と協議してもなかなか決められない中、こういう判断があつてよかった」とする声も聞かれた。
- ・特筆すべきは、どの判断理由においても代表者や役員には、「活動上での責任」が大きく感じておられ、日々変わる状況、社会の動きに気を配り、いのちとくらしを守る一員としての責任を抱えておられたことがうかがえたことである。

##### (5) 活動を中止、休止したことで気になっていること

- ・利用者やボランティアの仲間、会員同士の様子が気になっているという回答が一番多かった。
- ・外出ができないことで、身体機能の低下のほか、認知機能の低下や家族関係への影響なども気にしているとされた回答が多く見られた。
- ・活動がなくても、日常の買い物等で出会うこともあり、一定の声かけができていくこと、地域活動が、生活空間(圏域)と同一であるからこそその日常のかかわりがあることがわかった。
- ・子育てサークルは、スマートフォンアプリを活用しての連絡のやり取りをしているほか、高齢者のサロンでも手紙などを通じて「非対面」でつながりを保っていることがわかった。
- ・活動者の多くも「自分が感染拡大させてはいけない」と思っている人も多くいて、活動への思いと、感染拡大防止のための最善策で悩まれていることがうかが

えた。

(6) 活動を中止、休止したことで、何か考えていること

- ・活動が再開になったら、どうしていこうかと考えていると回答した人が多かった。
- ・しかしながら、感染症予防を継続しつつの活動に、形態の変容や、対策についても悩んでいることがわかった。
- ・作成する広報紙も、自分たちのPRだけでなく、読み手に「情報をお待ちしています」というコーナーを設けて、受け手、読み手を双方向にし、つながる工夫をされている団体もあった。

(7) 継続している活動の有無とその状況

- ・継続している活動は、約40%であり、そのうち70%以上は活動の形態を変更するなどして実施している。

(8) 活動を継続する判断について

- ・利用者や対象者が気になるという回答が多く見られた。
- ・継続していないと回答した人も、日常の買い物や散歩などで、声をかけたりしており、「普段の活動」ではない形で、つながり方を工夫している人も見られた。
- ・ボランティアグループや生活支援型のグループでは、「こんな時だからこそ、力を発揮せねば」と抱負を語られた団体もあった。
- ・孤立を防ぐために、つながりを意識して工夫をしていることがわかった。

(9) 活動をしていて、感じていること、気づいたこと

- ・孤立予防の取組みにつながっていると実感しているという回答の人が多かった。
- ・高齢者サロンでは、「1日誰とも話さなかった」という人もいて、やる意義を感じているとの回答もあった。
- ・活動自体が「自分のために」なっていると、実感したとの回答があった。決まった日に、出かけていく場所がある。そのことが健康につながり、自分のためになっていたと感じたとの意見である。

(10) 回答者の率直な気持ち

- ・自身の健康不安をあげた人が多かった。
- ・「コロナ鬱」「フレイル予防」についても、あげられており、新型コロナウイルス感染症が、身体的にも精神的にも影響を与えていることがわかった。
- ・当事者団体からは、「より孤立する人が増えるのではないか」との意見もあった。

(11) これまでの地域活動をどのように考えているか

- ・やってよかった、自分自身のためになっていたという肯定的な意見が多数あった。
- ・自分たちボランティアの役割を再認識したという回答もあった。
- ・仲間がいてよかった、相談できる人がいてよかったという回答もみられた。
- ・活動の中での「人材不足」や高齢化なども回答する人が多かった。

(12) 社協や行政に期待していること

- ・当会には、活動に対しての支援、助成金や活動財源、活動継続へのサポートさらには活動現場へもっと足を運んでほしいなどの意見が寄せられた。地域活動を支える当会の役割が明確になり、より身近な地域で活動をサポートする人材の配置などを通して地域活動のサポートが求められている。
- ・当会には、特に、若い層への活動への参加の働きかけについて意見があり、福祉活動者のすそ野拡大に向けての役割が求められている。
- ・新型コロナウイルス感染症に関しての情報において、テレビなどのニュースからは自分たちが欲しい情報が得にくいという意見があった。
- ・行政には、普段の住民主体への活動への支援の評価とともに、さらなる地域活動への支援を望む声があった。

## 5. 当会としてのまとめ

得られた結果から、地域活動の意義づけと、その支援を行う当会の役割について分析した。

### (1) 地域活動の意義づけ

- ・「健康」維持につながる地域活動
- ・関係づくりにつながる地域活動
- ・社会への気づきにつながる地域活動
- ・住民自治につながる地域活動

### (2) 当会の役割

- ・地域活動への人材発掘、ともに育てることの役割
- ・地域活動を伴走支援する専門職の配置の必要性

## 6. 志藤修史先生のコメント

- ・アンケートの結果では、活動者自身が手探り、不安を抱えている実態が明らかになった。これまでのつながりや社会課題への支援団体の悩み、苦しみ、ジレンマが率直に表れている。
- ・身近な地域での人と人とのつながりを軸に進めている活動の持っている価値の再確認ができた。
- ・活動を通じて「人」はつながり、成長していく。そのような「人」の存在が、「地域」の力となっていく。また力を蓄えた「地域」が、「人」が動く条件や場を整備し、ますます「人」がいきいきと活動できる。それは、どのような困難な状況下であったとしても、何を進めなければならないか、何ができるのかの知恵が湧き出てくる活動の原点である。
- ・地域活動を進めるためには「支え」が必要であり、活動のサポートを担う専門機関としての社会福祉協議会は当然のことながら、場所や人とのつながり、安心できる活動条件などをサポートしている行政の役割も重要であるということ。このような支えがあつてこそ、困難や困惑を相談しあえる、情報を共有しあえる、共に励ましあえるという活動が地域に根付いている。